

国際交流基金ロンドン日本文化センター主催

教師のための小唄ワークショップー 学習者による小唄パフォーマンスの指導方法ー 参加者募集要項

本研修では、小唄を利用した「創作口演型」活動の具体的な指導方法を扱います。参加者の方々には、2時間のオンラインワークショップ体験だけでなく、各自のペースで、JF ロンドンの指定する事前課題、事後課題に取り組む機会が提供されます。また、その成果を参加者のオンラインコミュニティで共有し、継続的な学び合いにつなげていきます。

実施形態：オンライン（Zoom） ※詳細は参加決定者に後日通知します。

対象：英国および欧州の教育機関に所属する現職日本語教師で、学習者による小唄パフォーマンスの指導を教育実践に取り入れる意欲のある方。

参加条件：事前・事後課題に積極的に取り組むことができ、国際交流基金事業広報を目的とする撮影・録画、アンケート、インタビュー等にご協力いただける方。オンライン受講に支障のない方。

開催日時と定員： 同じ内容で2回実施します。ご希望の日程をお選びいただきます。

実施日	時間帯	定員
2020年10月30日（金）	17:00 - 19:00（GMT グリニッジ標準時）	15名
2020年10月31日（土）	15:00 - 17:00（GMT グリニッジ標準時）	15名

応募方法： 下記オンラインフォームにご記入の上、お申し込みください。

<https://www.smartsurvey.co.uk/s/F2E35Q/> ※応募締め切り：10月5日（月）17時（BST）

選考とスケジュール：本研修は少人数公募制で実施します。オンラインでご応募いただいた方の中から、国際交流基金ロンドン日本文化センターが応募内容を審査し参加していただく方を決定します。なお、採否に関するお問い合わせにはお答えできませんのでご了承ください。

10月9日（金）	結果通知
10月6日（火）～10月26日（月）	参加者ガイダンス、事前課題の提出
10月30日（金）、10月31日（土）	ワークショップ当日
10月31日（土）～	事後アンケート、事後課題

講師：畑佐一味氏（米国パデュー大学 外国語・外国文学科教授）

1989年イリノイ大学博士（教育心理学）取得。1983年より日本語教育に従事し、イリノイ大学、パデュー大学、モナシュ大学、ミドルベリー大学日本語学校等で教鞭をとる。専門は日本語教育と外国語教育でのテクノロジー利用。日本の古典芸能である落語や小唄を日本語教育に取り入れる取り組みを長年行っており、その実践から生まれた知見とリソースを広く発信し、公開している。

「小唄プロジェクト」のページ <http://tell.cla.purdue.edu/hatasa/rakugo/rakugobystudents.html>

「伝統芸能を題材にしたオンラインでの教育活動ー落語と紙切りを用いた実践事例ー」報告

<http://www.nkg.or.jp/wp/wp-content/uploads/2020/08/sekai-america202008.pdf>

講師からのメッセージ：小唄の指導は、「目線」「声量」「発音」の三つのポイントさえ押さえれば、落研や演劇の経験がない日本語教員でも十分可能です。そこに、「仕草」と「創造性」という要素を加えれば、指導者にとっても演じ手にとっても満足度の高い面白い作品ができます。今回のワークショップでは参加者に小唄を実演してもらい、講師の指導によって上達する感覚を実感し、指導者としての自信を身につけていただきたいです。

研修コーディネーター：藤光由子（ロンドン日本文化センター）

以上